

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-147591

(43)Date of publication of application : 02.06.1999

(51)Int.Cl. B65D 90/02 B65D 88/12

(21)Application number : 09-309134

(71)Applicant : NEC CORP

(22)Date of filing : 12.11.1997

(72)Inventor : KIHARA JIRO

(54) CONTAINER WITH DIVIDED CANOPY

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve a transporting property of a single canopy and a handling property of a large-sized canopy.

SOLUTION: A container composed of both a foundation floor 1 and a canopy 2 is constructed such that the canopy can be divided into at least more than 2 segments. Each of the divided canopies has a hook for use in connecting each of the canopies from each other. As the hook, a quick lock is used. Each of the canopies has wheels 3 for use in moving the canopies by themselves. With such an arrangement as above, motion of each of the canopies 2 toward the foundation floor can be easily carried out by a manual operation. It may also be applicable that a packing 5 is arranged at a contact surface between each of the divided canopies and between each of the canopies and the foundation floor. In this case, an air conditioner within the container can be sealingly enclosed.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-147591

(43)公開日 平成11年(1999)6月2日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

B 6 5 D 90/02  
88/12

識別記号

F I

B 6 5 D 90/02  
88/12

Q  
B

審査請求 有 請求項の数7 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平9-309134

(22)出願日 平成9年(1997)11月12日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社  
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 木原 次郎

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株  
式会社内

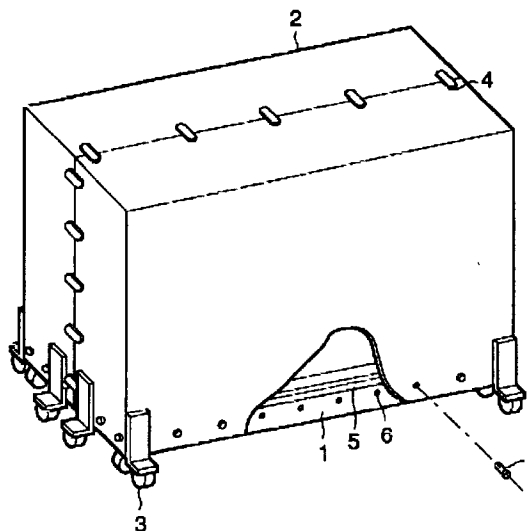
(74)代理人 弁理士 畑 泰之

(54)【発明の名称】 キャンピーフ分割型コンテナ

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 本発明の目的は、キャンピーフの単独輸送性及び大型化したキャンピーフの取り扱い性を向上させることにある。

【解決手段】 台座とキャンピーフとからなるコンテナにおいて、キャンピーフを少なくとも2以上の部分に分割可能な構造とした。各キャンピーフは互いを連結するため留め金具を有する。留め金具としてはクイックロックが用いられる。各キャンピーフはキャンピーフ自体を移動させるための車輪を有する。これにより台座へのキャンピーフの移動が人手により容易となる。また分割された各キャンピーフの間及びキャンピーフと台座の間の接触面にパッキンを有してよく、その場合コンテナの内部の空調を密封できる。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 台座とキャノピーとからなるコンテナにおいて、キャノピーを少なくとも2以上の部分に分割可能な構造としたことを特徴とするキャノピー分割型コンテナ。

【請求項2】 前記分割されたキャノピーは、互いを連結するための留め金具を有することを特徴とする請求項1記載のキャノピー分割型コンテナ。

【請求項3】 前記留め金具は、クイックロックであることを特徴とする請求項1又は2項記載のキャノピー分割型コンテナ。

【請求項4】 前記分割されたキャノピーはキャノピー自体を移動させるための車輪を有することを特徴とする請求項1乃至3の何れか1項記載のキャノピー分割型コンテナ。

【請求項5】 分割された各キャノピーの間及びキャノピーと台座との間の接触面にパッキンを有することを特徴とする請求項1乃至4の何れか1項記載のキャノピー分割型コンテナ。

【請求項6】 前記キャノピーのそれぞれはその底部が空間状に形成されていることを特徴とする請求項1乃至4の何れか1項記載のキャノピー分割型コンテナ。

【請求項7】 所定の被搬送物体を台座に搭載した後、互いに対となる分割された複数個のキャノピーを摺動させて当該物体を被覆した後、キャノピーを互いに係合せしめると共に台座とも係合せしめることを特徴とするコンテナ形成方法。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術】本発明は台座及びキャノピー（天蓋）とからなる大型コンテナに関する。特に詳しくは、人工衛星等の精密機器を塵芥や湿気から保護して輸送する際に使用される密閉式再使用型の大型コンテナに関する。

**【0002】**

【従来の技術】人工衛星など大型精密機器を搬送するためのコンテナはその大きさがゆえに、その運搬は道路交通法の規制から一般道路の走行を規制され、その経路及び時間帯に関し特別な許可を必要とする。従来の大型コンテナは、図5に示されるように、台座21へ精密機器を設置した後、クレーン等によりキャノピー22を被せて、ボルト27で台座とキャノピーとを固定していた。さらにキャノピーが大きく重量のあるもの場合には溶接等の加工が必要であった。一方、台座21にはパッキン25が具備されており、コンテナ内部が密封される。この時に必要に応じ空調設備等をも積み込むために、キャノピーを含むコンテナの大型化が進み、またキャノピー自体もクレーンでの吊り上げ下げなどするためにその操作性も悪化してきた。このようにコンテナは、収納される機器の大型化に伴ってコンテナ自体も溶接等

により組み立てられまでに大型化してきた

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】上記した従来の技術においては解決すべき第1の問題点として、積み荷をおろしたコンテナの単独返送は、台座とキャノピーを分離させても、キャノピーの輸送がその大きさゆえに困難となる。そのため従来、その返送の際には輸送の再許可を受けるか或いは溶接により切断して返送されてきた。

【0004】解決すべき第2の問題点は、収納すべき機器の大型化にあわせてコンテナを大型化させるとキャノピーの操作性が悪化することである。それはキャノピーの大型化に伴って大重量となり、キャノピーの吊り上げ等の操作性が困難となってくる。従って本発明の目的は、キャノピーの単独輸送性及び大型化したキャノピーの取り扱い性の向上を向上させることにある。

**【0005】**

【課題を解決するための手段】本発明は上記解決すべき課題を解決するため、基本的に以下に記載されたような構成を採用するものである。すなわち本発明の第1の態様は、台座とキャノピーとからなるコンテナにおいて、キャノピーを少なくとも2以上の部分に分割可能な構造としたことを特徴とするキャノピー分割型コンテナである。

**【0006】**

【発明の実施の形態】本発明においては上記構成を採用したことにより、特にキャノピーを分割可能としたことにより、キャノピーの取り扱い性及びキャノピー単独での輸送性が改善される。つまり空となったコンテナは分解されて通常の一般道路を経由して返送可能である。好ましくは各キャノピーは互いを連結するため留め金具を有する。留め金具としては種々の手段が用いられるが、好ましくはクイックロックが用いられてよい。また好ましくは各キャノピーにキャノピー自体を移動させるための車輪を有することにより、台座へのキャノピーの移動が人手により容易となる。また本発明によればコンテナは再使用可能となる。また好ましくは分割された各キャノピーの間及びキャノピーと台座との間の接触面にパッキンを有してよく、その場合コンテナの内部の空調を密封できる。

**【0007】**

【実施例】図1は組み立てられた本発明の分割型コンテナの1実施例を示す斜視図である。図2は2分割されたキャノピーの1つを示す斜視図である。本発明のキャノピー分割型コンテナは、台座1とキャノピー2とからなるコンテナにおいて、キャノピー2を少なくとも2以上の部分に分割可能な構造としたことを特徴とするものである。

【0008】図1において1は台座、2は2分割された分解型キャノピー、3は当該キャノピー移動のため取り付けられた車輪である。従ってキャノピー2を人手で押

すことにより容易に台座1へ運び込むことができる。5はパッキン、6は台座のボルト孔、7はボルトである。コンテナの大きさは格納される物体により異なるが、典型的には人工衛星用では幅4.5m、高さ4m、長さ6mである。図2には本発明に係る分割型キャンピの1具体例が斜視として示されている。図2から明かなように、本発明に係るキャンピにおいては底部に底板はなく空間部を形成しており、これによって図3に例示されているように、容易に容易に台座1の外周部と接合させることができる。図3はキャンピ分割型コンテナの組立図である。たとえば人工衛星等の大型精密機器を台座1に設置後、2つのキャンピ2を留め金具であるクイックロック4で連結し、且つ、キャンピ2を複数のボルト7で台座1へ固定している。

【0009】図4及び図5に、クイックロックの1例の動作を示す。リングクリップ8をクリップ10に射掛けてノブ9を操作することにより2つのキャンピは連結される。キャンピ2は車輪3を備えているので、キャンピ2を手で押すことにより容易に台座1へ運び込み、その後にクイックロック4を用いて2つのキャンピを接続する。これボルト7で台座1へキャンピ2を固定する。

【0010】分割された各キャンピの間の接触面、及び、キャンピと台座の間の接触面には、パッキンが設けられて当該コンテナの内部の空調を保持密封する。

【0011】

【発明の効果】本発明の分割型キャンピを有するコンテナによれば、キャンピはクイックロックを解除するだけで容易にコンテナを分割できる。分割したキャンピ

一はそれぞれ車輪を有していることから人力によって容易に移動できる。またコンテナとして組み立てる場合にはクイックロックを操作するだけで容易にキャンピの組み立てができる。またキャンピ同士及びキャンピと台座と間にパッキンを設けることでコンテナの内部を密封できるまたコンテナは再使用が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は本発明のキャンピ分割型コンテナの斜視図。

【図2】図2は分割されたキャンピの斜視図。

【図3】図3は本発明のコンテナの組み立て中または分割中の図。

【図4】図4はクイックロックの詳細図。

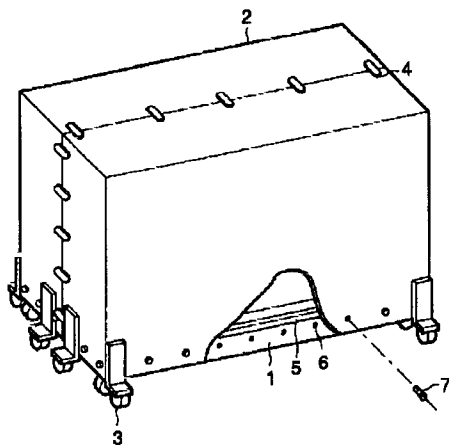
【図5】図5はクイックロックを連結したときの詳細図。

【図6】図6は従来のコンテナの一例を示す斜視図。

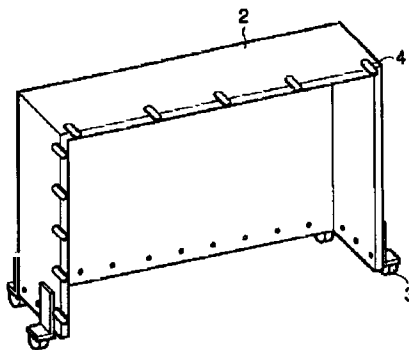
【符号の説明】

- 1…台座
- 2…キャンピ
- 3…車輪
- 4…クイックロック
- 5…パッキン
- 6…ボルト孔
- 7…ボルト
- 8…リングクリップ
- 9…ノブ
- 10…フック
- 11…収納機器
- 12…ノブの操作方向

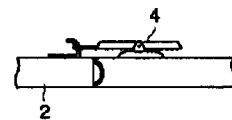
【図1】



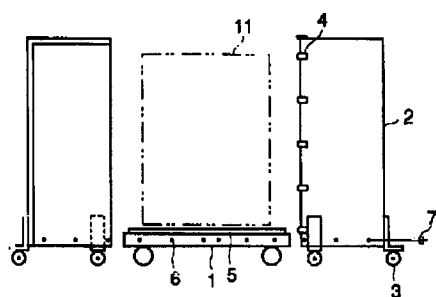
【図2】



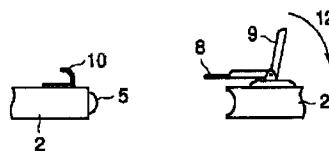
【図5】



【図3】



【図4】



【図6】

